



1. 新しい目標に向かって

新年の始まりは、誰にとっても物ごとの取り組みへの新たなる期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。それだけに、今年はどうのような自分でありたいか、そのためにどのような役割を果たすべきか、を自分自身でしっかりと意識することが大切です。「わからなかったことが理解できて良かった！」という自らの活動の成果を実感するためには、目標を持ち、その実現に向けて力一杯取り組む過程が大きく関係します。私たちは、目標があることで努力をし、努力したことで成果を期待するものです。目標を設定することなく漫然と努力しているだけでは、やる気も高まりません。

そこで、自分自身で目標を設定することで、困難を乗り越えて頑張ろうという強い意志を持つことができるのです。とは言え、努力すれば必ず望んだ結果を手にする訳ではありません。しかし、目標に向かって努力することや諦めずに取り組んだ満足感は、目に見える以上に本人にとってやりがいをもたらしてくれます。その意味で、目標が達成できるに越したことはありませんが、好ましい結果が得られないことで努力がすべて無駄になるとは言い切れません。目標に向けて、自らの力を注ぐことで、充実感や自信をはじめ、次への挑戦につながる意欲も手にできるのです。

このように目標を持つことには大きな意味があります。学ぶことは、まねることと言われますように、学ぶ環境にお手本となる存在は、欠かせません。めざす姿が見えることで、学びが実現するとも言えます。それだけに、身近な存在である私たち大人は、良きお手本としての役割が求められます。子どもは大人の鏡であるとも言われます。

新学期を迎え、私たちが大人として、教師として鏡たる子どものめざす姿であることを意識し、目標をもって前向きに取り組む姿勢を示すことで、その役割を果たしていきたいと思えます。

2. 始業式でのお話

2022年11月21日(月)から12月18日(日)にかけて、「FIFA ワールドカップカタール 2022」が開催され、アルゼンチン代表が通算3度目の優勝を果たし、幕を下ろしました。その大会で、新たな歴史を切り拓いた日本人女性がいました。それは、W杯史上初の女性審判員である山下良美さんです。山下さんは、4歳からサッカーを始め、大学では女子サッカー部に所属し、選手として活躍していましたが、ある日、先輩から誘われ審判員に転じたそうです。山下さん自身、当初は、興味もないし、あまりやりたくなかったそうです。しかし、渋々踏み出した一歩が、彼女の人生を大きく変えることになりました。女子W杯や東京五輪で主審を務め、Jリーグ28年の歴史で初めて女性の主審として男子の試合を裁いたそうです。

現在、日本サッカー協会に登録している26万人の審判員のうち、国際主審は、山下さんを含め男女合わせて11人のみとのことです。W杯を終えた山下さんは、取材の中で、「男子のW杯で初めて女性が審判をするということは、女性の可能性は常に広がっているということを他の人たちに示すものであり、それは私も強く感じていることです」と答えておられました。また、「大きな責任とプレッシャーを担えることがうれしい」とも答えておられます。

何がきっかけで自分の人生が大きく転換するかわかりません。みなさん(子どもたち)は、機を逃さず、勇気をもって最初の一步を踏み出してください。それが、どんな結果であろうとみなさん(子どもたち)の未来を良いものにしてくれると思います。